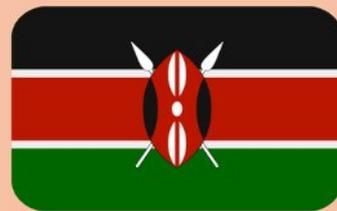


Pole Pole ケニア通信

2024.11



JICA 海外協力隊(環境教育) 和田温子

こんにちは！ JICA 海外協力隊の環境教育隊員として、2023 年 7 月よりケニアに派遣されている和田温子です。ケニアでの生活も 1 年以上が経ち、言葉や文化にも慣れてきました。「Pole pole(ポレポレ)」とはスワヒリ語で「ゆっくり」という意味です。ケニアは日本と違い、時間の流れがとてもゆったりしています。思い通りにいかないことがあっても、「焦らずのんびりやればいいよ」という意味で「ポレポレ」と人々は言い合うことが多いです。そんなケニアの文化や生活、私の活動についてここでお伝えできればと思います。

ケニアについて

ケニアは東アフリカに位置する共和制国家で、1963 年にイギリスから独立しました。首都のナイロビはアフリカ大陸有数の大都市で、まるで東京のように発展しています。人口は約 5400 万人と日本の半分ほどですが、国の面積は日本の 1.5 倍あります。公用語は英語とスワヒリ語で、ほとんどの人がそのどちらも話します。また、約 42 部族がいる多民族国家であり、部族ごとの言語もあるため、彼らは英語とスワヒリ語に加え、自分の部族の言語も話すことができます。日本でも有名なマサイ族もケニアです。また、主な宗教はキリスト教です。ケニア人の 8 割近くがキリスト教を信仰しており、毎週日曜日は家族揃って教会に行くのが習慣です。

任地エンブについて

私の活動任地であるエンブカウンティはケニア中央部に位置しており、首都ナイロビからマタツと呼ばれる乗り合いバスで 2 時間半の場所にあります。カウンティとは「県」のことで、ケニアは日本と同じ数の 47 カウンティがあります。エンブの人口は約 60 万人で、中規模の県です。ケニアで一番高い山、ケニア山(5,199m)の麓にあるため、相模原市のように緑が豊かな場所で、水には困りません。この豊かな環境を利用して、紅茶やコーヒーの栽培が盛んです。また、アボカドやバナナ、マンゴーの木もたくさんあります。北部はケニア山のおかげで緑が豊かですが、南部は乾燥がちで気温も高いエリアです。

アジア人、外国人もほとんどいないため、私が街を歩くととても目立ちます。この感覚は日本ではなかなか感じられないものです。スワヒリ語を話すと、ケニア人はとても喜んで歓迎してくれます。

エンブタウン



カウンティ北部



カウンティ南部



活動先について

私は環境教育隊員として、環境管理公社エンブ支部(通称:NEMA National Environment Management Authority)に配属されています。日本でいうと、環境省の出先機関のような位置づけで、すべてのカウンティにオフィスがあります。配属先の主な仕事は、開発事業に対する環境影響評価をおこなうことです。その他には、環境に関するライセンスを事業主に付与したり、住民からの環境に対する相談も受け付けたり、環境保護を目的とした幅広い仕事をしています。

私の担当する環境教育分野は、NEMA の仕事内容に含まれているものの、同僚はそこまで手が回らず、実際のところは何もされていません。そのために私が配属された経緯があるので、少しずつですが自分にできることを進めています。

活動先のオフィス



全面が窓のため、明かりは自然光で十分。ソーラーパネルや雨水タンクが装備されていて、環境に優しい造りになっています

活動の一場面



基本的には毎日オフィスに出勤し、自分の活動準備をしたり、同僚たちから色々と学んでいます

配属先の同僚たち



環境イベントにもたまに参加します。これは同僚と植林イベントに参加した時のものです